

「境小学校の境棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

垂水市立境小学校

2 学年・人数

6年生1人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和3年9月28日(火)・29日(水) 授業時間 (境小学校体育館)

(2) 発表の日時・場所

令和3年10月3日(日) 境小学校運動会

令和4年3月6日(日) 二月祭りでの奉納(老神神社)(予定)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事、伝統工芸品について

(1) 名称

境棒踊り(さかいぼうおどり)

(2) 由来

棒踊りは、関ヶ原の合戦に敗れた島津義弘が、意気消沈した郷土の士気を鼓舞するため、武芸の技を踊りに加えたものと伝えられる。

境の棒踊りは、土地の古老によると「百年以上前に百引から伝わった」とされる。

旧暦一月初「申」の日に老神神社において神事を取り行い、一年間地区民の安全、無病息災及び五穀豊穡を祈願し棒踊りを奉納した後、各家庭を踊り歩く行事となっている。

(3) 構成等

境棒踊りは3人1組で編成される。3人がそれぞれ3尺棒、6尺棒と鎌を使用して踊る。3尺棒と6尺棒を打ち合わせ、その間で鎌を振るという形態である。場所を入れ替わって切り合ったり守ったり、大きく動く勇壮な踊りである。衣装は青い法被に白い鉢巻き、背中に色鮮やかなたすきを結ぶ。

5 保存会や地域との連携の具体

青壮年団が中心となっている保存会が、踊りの所作や衣裳の着付け等について指導している。披露の際は、児童・教職員及び保存会員に加えて、これまでの伝承活動において踊りの所作を身に付けた境小の卒業生(現、中学・高校生等)と一緒に踊っている。

また、地域公民館は道具等の保管等、活動をサポートしている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

伝承の時間確保が最大の課題である。境小学校では年間を通じて活動時間が限られているため、放課後を利用し伝承活動を実施している。児童・教職員及び保存会員、卒業生が一堂に会し伝承活動を実施するため、持ち手に分かれてグループ練習を行うなど、少ない時間を効率的に活用した。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



運動会前の練習風景



運動会での披露風景



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【6年生児童】

1年生からやっていた棒踊りの練習をしました。今回は、初めて6尺という棒を使い踊りました。3尺や鎌よりも難しく、本番でも間違えたり遅れたりしてしまいました。小学生最後の棒踊りは、とても楽しくできました。

【教職員】

地域に代々伝えられている棒踊りの練習を地域の方と一緒にすることで、地域の輪の中に自分が入れた気がした。初めは覚えるのに苦労したが、ある程度覚えてきてからは、もっとうまくできるようになろうという気持ちで指導を受けることができたと思う。

【保存会から】

境小を卒業した人たちに声をかけたところ、練習には中高生が参加し、また練習には参加しなくても、地域に対する思いがある人たちが運動会当日には大勢集まり参加してくれて、体が覚えているのか大変良くできたと思った。

【地域の方から】

踊り手の人数が不安の中、前任の先生方や卒業生なども参加した運動会当日には、ぶっつけ本番の方々も体が覚えているようで、すごく上手に踊っていました。これから人員不足の課題がありますが、地域の皆様が棒踊りの存続を願う思いが伝わってきました。

【地区公民館から】

棒踊りは、地域の人々が強い思いをもち、大切にしてきた伝統文化です。地域の先輩から子供たちへ直接の指導を通し引き継がれてきました。棒踊りは、多世代交流の一つの形として、また地域の特色として継承していきたいと思えます。